

第2回みえインバウンド誘客計画検討有識者会議 概要

- 1 日時 令和7年12月25日（木） 14時15分から16時15分まで
- 2 出席者
有識者 伊与田委員、柴原委員、須崎委員、高木委員、三重野委員、
山田委員
県 知事、観光部長、観光部副部長、観光部次長
発表者 高山市観光課長
- 3 主な意見
 - (1) ゲート、流動、周遊に関すること
 - ・ 広域での誘客が大切でアジア市場は近隣県、欧米市場はさらに広域での地域連携など、市場により戦略を変えることが重要である。
 - ・ 三重県へ電車で向かう際、名古屋駅での乗換方法がわかりにくいという声がある。
 - (2) 認知に関すること
 - ・ 今後は旅行先を決める際にAIの影響力拡大が見込まれるため、その対策も必要になる。
 - ・ 三重県はアクセスの認知度が低く、ゴールデンルートから南下してすぐに三重県へ行けることがあまり知られていない。三重県を含む新しい周遊ルートに魅力的な名前を付けてプロモーションするのも一案である。
 - (3) 受入環境に関すること
 - ・ DMOは機能強化と行政との役割分担の明確化が重要であり、行政とDMOで緊密に連携する必要がある。
 - ・ インバウンドが急増すると宿泊施設側の受入対応スタッフが不足する。日本人宿泊者が少なくなる閑散期にインバウンドを誘客できるのが理想である。
 - (4) 対象市場に関すること
 - ・ 対象市場を選定する際はマーケティングの観点も踏まえるべきである。
 - (5) 取組の継続性に関すること
 - ・ 行政だけでなく、事業者自身でも地域を盛り上げる必要がある。
 - ・ 取組を継続するためには、宿泊税など新しい財源確保も必要である。